

市民公開シンポジウム

「医療被ばくを考える」

—エックス線 CT による被ばくの現状と
その軽減のために—

日時：平成 25 年 7 月 20 日（土）午後 2 時から午後 4 時半まで
場所：東京大学山上会館（東京都内）

座長 石口 恒男（愛知医大 日本医学放射線学会放射線防護委員会委員長）
遠藤 啓吾（京都医療科学大 日本学術会議放射線・臨床検査分科会委員長）

1) 冒頭の挨拶 栗林 幸夫（慶応大・日本医学放射線学会理事長）

2) 基調講演「医療被ばく健康リスク」
甲斐 倫明（大分県立看護科学大）

3) 講演

1. 日本における CT 被ばくの現状
対馬 義人（群馬大）・遠藤 啓吾（京都医療科学大）

2. 米国における CT 線量管理の現状
伊藤 友洋（GE ヘルスケア・ジャパン）

3. 日本における CT 線量管理技術の開発

- 放医研における取り組み
赤羽 恵一（放医研医療被ばく研究推進室）

- 肺がん CT 検診における取り組み
村松 禎久（国立がんセンター東病院放射線部）

4. 低線量高画質 CT 装置の開発
柳田 祐司（東芝メディカルシステムズ）

5. マスコミから
大岩 ゆり（朝日新聞科学医療部）

4) パネルディスカッション：医療被ばくを考える

5) おわりに（総括）
米倉 義晴（放射線医学総合研究所・日本学術会議会員）

【対象】

一般市民
放射線科医
診療放射線技師
放射線管理担当者
医療機器関係者

【入場料：無料】